

ISSスクエア

フェイクニュースの法的・倫理的課題

法制・倫理分科会

- 序章 法制・倫理分科会の紹介
- 第1章 はじめに
- 第2章 関係する法律
- 第3章 ファクトチェック
- 第4章 リテラシー教育
- 第5章 おわりに

序章 法制・倫理分科会の紹介

【メンバー】

研究リーダー：村上 康二郎 教授

学生：計12名(情セ大6名、中央大6名)

岩崎 瞬、山田祐也、武内弾、富田雅斗、立澤響、松波俊介、古閑直人、山崎智也、三浦優、惣島雅樹、松本侑大、西山陸人

【活動内容】

- 情報セキュリティに関する「法」と「倫理」の在り方について、「実践」と「理論」の両面から検討することを目的として活動
- 情報技術の進歩に伴って日々生まれる、従来の規範の枠組みでは対応できない課題を明らかにし、方策の提案を目指す



• 2023年度活動テーマ

「対話型AIの法的・倫理的課題」



イラスト：Copilotデザイナーで作成

• 2024年度活動テーマ

「フェイクニュースの法的・倫理的課題」



イラスト：ChatGPTで作成

第1章 はじめに

- 能登半島地震

「志賀原発から油が流出した！」

- 新型コロナウイルス

「トイレトペーパーがなくなる！」

- 熊本地震

「ライオンが脱走した！」

- アメリカ合衆国

「ペンタゴン近くで爆発」



能登半島地震 SNSで真偽不明や誤りの情報拡散 注意深く対応を

2024年2月4日 5時06分

「熊本地震でライオン脱走」Twitterにデマ拡散の男を逮捕

© 2016年07月21日 11時44分 公開



PR 英語の翻訳、資料もスピード作成 「DeepL Pro」の最新機能をチェック

PR 日立のキーパーソンが語る「モダナイゼーション」の実態と現実解

熊本地震の直後に「動物園からライオンが逃げた」などとTwitterにうその投稿を行い、動物園の業務を妨害したとして、熊本市は4月20日、神奈川県を偽計業務妨害の疑いで「悪ふざけでやった」とするという。

男は4月14日夜、熊本地震直後、ライオンが道路を脱走するとともに「おいふざけでうちの近くの動物園でライオン放たれたんだが 熊本」とTwitterに投稿。熊本市に問い合わせ電話に対応

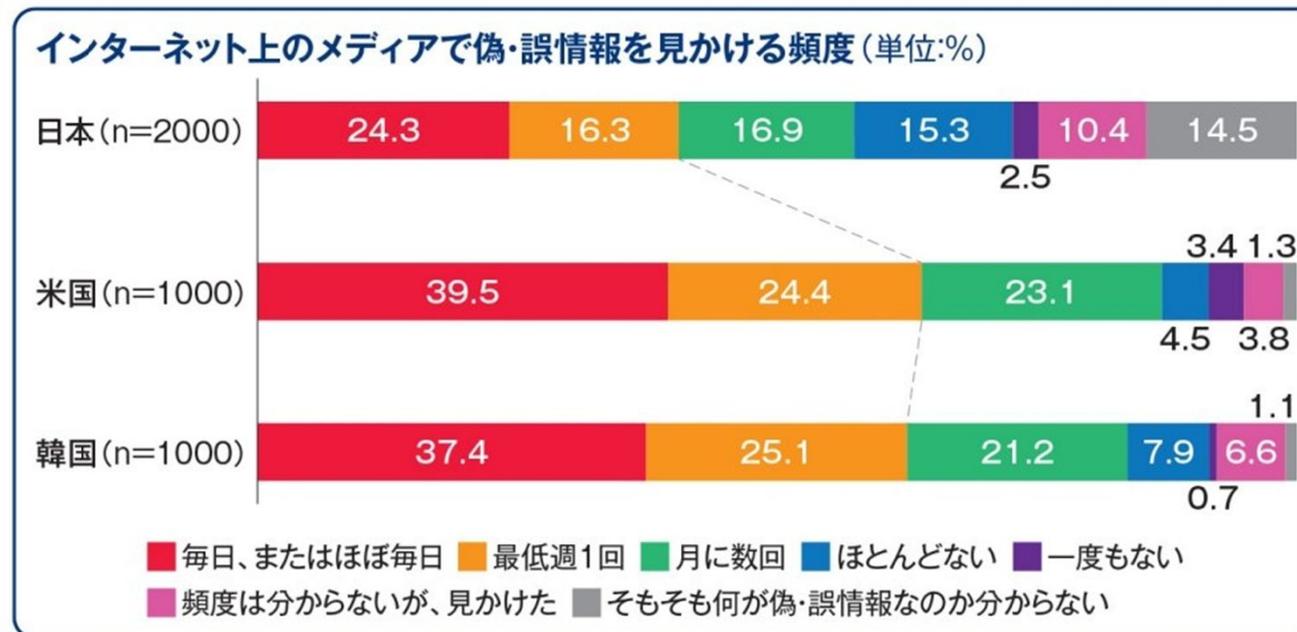
されました。専門家は「収入を減らすのは投稿せず、注意

[ITmedia]



問題の投稿（現在は削除）

- 4割の人が週に1回以上、偽・誤情報に接触



4割の人が週に1回以上、偽・誤情報に接触

図2 1か月間にSNSやブログなどのネットメディアで偽・誤情報に接触した頻度を調査した結果。週に1回以上見た人は4割に達する。米国や韓国の状況はさらに深刻で、6割を超える (出所: 総務省・みずほリサーチ&テクノロジーズ「令和4年度 国内外における偽・誤情報に関する意識調査-報告書-」)

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02779/031100001/>

- フェイクニュース = 真実でない記事
- フェイクニュースの種類

誤情報 (Misinformation)	不正確な統計や写真説明、日付、誤訳や風刺が事実と受け止められるケース
偽情報 (Disinformation)	意図的に改ざんした情報、でっち上げた陰謀論や噂

<https://news.yahoo.co.jp/special/fakenews/>

⇒発信者に悪意がなくても、フェイクニュースになる可能性がある

- 誤解や偏見の助長
 - コロナ発生当初は多くの誤情報やフェイクニュースがながれ、正しい情報かわからなかった人が相当数いた。
- 社会的不安の増加
 - 災害の偽の救援情報などは社会に混乱をもたらす。
- 健康や安全へのリスク
 - 「携帯電話の5G電波がコロナを広める」というデマによって携帯電話の基地局が破壊される事例があった。

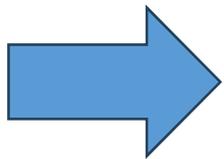
フェイクニュース横行の背景



- SNS普及によりオールドメディアだけでなく**一般人からの情報発信や拡散**が可能になった
- 多くの一般人が**SNSで情報収集・閲覧**をしており、発信した情報が広範囲かつ迅速に伝播され**影響力が大きい**
- 偽情報は、**正しい情報よりも、より早く・より広く拡散**する特性がある
(SNS上のBotアカウントもこの状況に寄与している)
- 自身と似た属性・興味関心の利用者が集まるコミュニティが自然形成され、**自身と似た意見ばかり触れられるようになる**
(パーソナライズ技術によるフィルターバブルおよびエコーチャンバー)
- SNS利用者情報の収集・分析によって、**個々の利用者の興味や関心に応じた情報配信**が可能であり、効率的なアプローチが可能である

主に次の3つの取り組みがある

- 法規制
- ファクトチェック
- リテラシー教育



各取り組みについて、次章から詳しく紹介

- 各取り組みについて説明、および課題などを明らかにする
- 一般の人たちが今日からできる取り組み & フェイクニュースに騙されない為に気をつける事を取り上げる

第2章 関係する法律

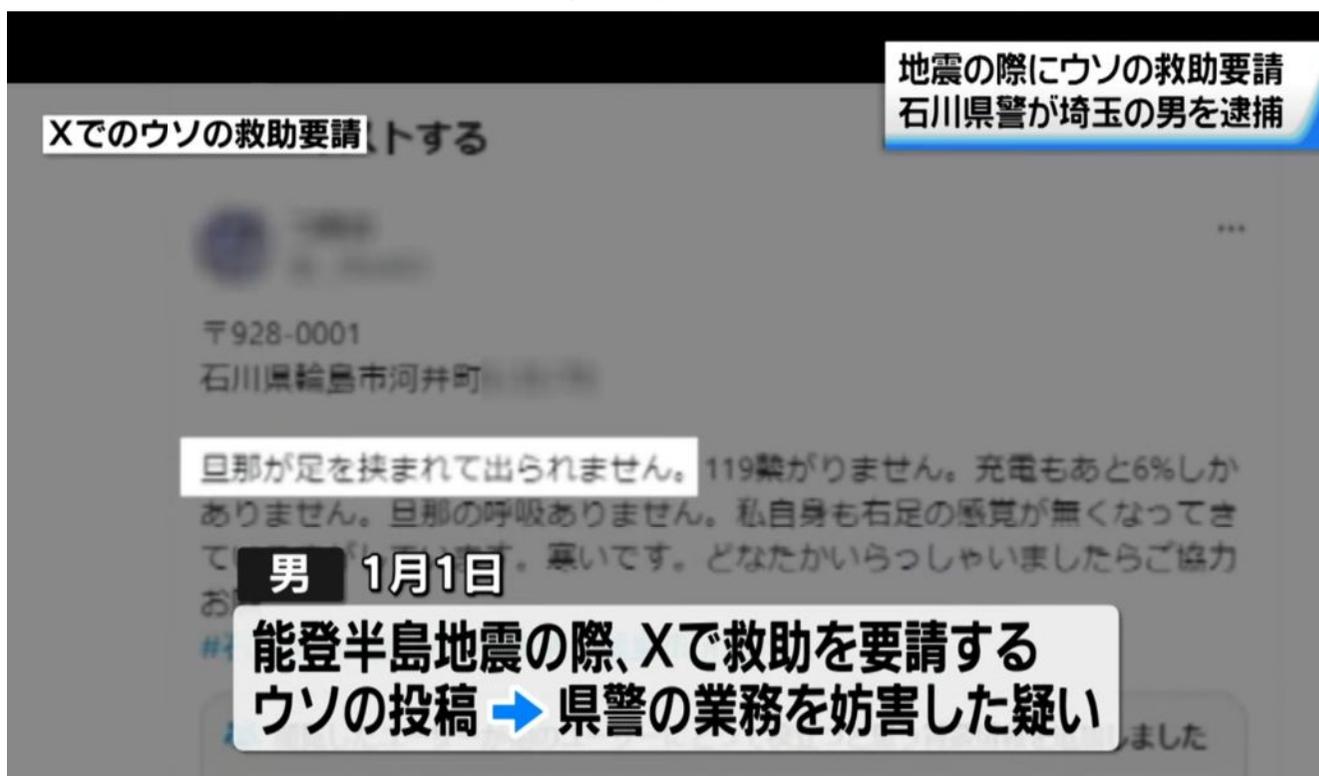
- 現在日本では、フェイクニュースに対する包括的な法体系はない
- 既存の法律を適用してフェイクニュースへの対応を図っている
 - **刑法**：名誉毀損罪、侮辱罪、偽計業務妨害罪など
 - **民法**：不法行為に基づく損害賠償
 - **公職選挙法**：選挙運動における虚偽事項の公表など
 - **特定商取引法**：不実告知などによる勧誘の禁止
 - **プロバイダ責任制限法**：権利侵害の削除請求など

- 実際の事例

刑法：

偽計業務妨害罪

例) 能登地震、偽の救助要請



【公式】テレビ金沢：<https://www.youtube.com/watch?v=Tnn1NW2OkpA>

プロバイダ責任制限法の一部改正

- 大規模プラットフォーム事業者に対して①・②の義務づけ ※1

① 対応の迅速化

被害拡大の防止につながり、被害者の社会的・精神的負担を減らせる

② 運用状況の透明化

削除要請への対応状況や削除基準などが透明化されることで
公平性の確保につながる

- 情報流通プラットフォーム対処法として2025年5月までに施行

※1 総務省『情報流通プラットフォーム対処法の省令およびガイドラインに関する考え方』より要約

- **オーバブロック**

情報へのアクセス制限や削除を行う際に、本来削除する必要のない情報まで過剰にブロックしてしまう現象

例) 風刺やパロディの誤削除、正確な情報へのアクセス制限

- **表現の自由**

規制により意見や批判の抑制に繋がり、表現の自由が脅かされる恐れがある

- **対策**

- フェイクニュースの定義を明確にする
- 政府、事業者、教育機関など多様な主体による協働
- 対策のプロセスや基準を透明化し、説明責任を果たす

POFMA法（シンガポール, 2019）

政府が偽情報と判断した場合、該当するウェブサイトへのアクセス制限や、PF事業者への削除命令が可能
例) マスクの在庫がないという偽情報に対処

- 罰則

- 個人：禁固10年と約800万の罰金の両方又は一方
- 法人：約8000万の罰金

- 問題点

フェイクニュースの解釈が曖昧で、政府が広域な権限を持つことから、検閲に繋がりがかねない

第3章 ファクトチェック

ファクトチェックのやり方

① 一次情報と比較して根拠を探す

信頼性の高い一次情報（公的機関、各企業、組織の公式HP、論文など）と比較する。
国際的なファクトチェック団体（ICFN）の認証を受けたファクトチェック団体の公表情報を参照するのも有効。

② 事実と意見を区別する

個人の推測・判断に基づく意見を事実や一般論として受け取ると誤認につながる。

（例）「雲が出ている。雨が降りそうだ。傘を持とう。」

ファクトチェック:「事実」を切り分けて検証



<https://www.factcheckcenter.jp/explainer/fact-check/jfc-fact-checking-101/> より

③ 複数のメディアで公開されている情報が確認する

複数のメディアを確認することで内容の抜けや言い回しの違いによる誤認を防ぐことができる。

④ 最新情報がないか確認する

昔の常識が今の非常識になっている可能性も。情報の発信時期を確認し、最新情報がないか常に確認する。

⑤ 曖昧な文章表現をしていないか確認する

具体的で明確な表現がされていない情報は、根拠が明確ではなく、個人の推測が混じった意見であるケース多い。

ファクトチェックに関する団体



IFCN (International Fact-Checking Network)



<https://www.poynter.org/ifcn/> より

ーファクトチェックの国際団体

- 公正・公平で質の高いファクトチェックを実現するための原則として、「Code of Principles」を策定
- 世界で140を超える団体が認証を受けており、ファクトチェックの普及や進化のために認証団体が集まるイベントの開催や、認証団体の交流や協力を促進

日本のファクトチェック団体

- 日本ではFIJ (FactCheck Initiative Japan) が「ファクトチェックガイドライン」を策定
- 各種メディアがFIJガイドラインに則ってファクトチェック結果を一覧として公開。任意の情報を検索することも可能。



<https://infact.press/> より

<https://fij.info/> より

ファクトチェック団体、公的機関にも間違いはある

ファクトチェック団体は公正性・透明性・公開性を重視しているが、**完全・無謬はありえず、ファクトチェック記事もファクトチェックの対象となり得る。**

IFCNの「Code of Principles」で規定されるファクトチェックの5つの原則より抜粋

1. **非党派性と公正性**：片方の側や特定の政策的立場に立ったファクトチェックではなく、全ての検証を同じ基準で実施する。

最近では・・・

メタのザッカーバーグCEOは公式サイトに動画を掲載し、メタが運営するSNSのフェイスブックやインスタグラムなどで実施している、**民間の非営利組織など第三者による投稿内容の事実確認、ファクトチェックを廃止すると発表しました。**

～中略～

かわりにイーロン・マスク氏が所有するXが導入した**「コミュニティノート」と呼ばれる、利用者どうして指摘するしくみを採用する**としていて、まずはアメリカでこうした措置を実施するということです。



NHKニュース「米メタ 第三者ファクトチェック廃止 トランプ氏就任を踏まえたか」
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250108/k10014687371000.html> より

① 情報の複雑化と拡散の速さ

情報通信技術の進展により、現代では情報が瞬時に広がる。「拡散スピードの速さ」「情報の複雑さ」「媒体数の多さ」の影響で、個々人が情報の正確性を判断することが難しくなっている。



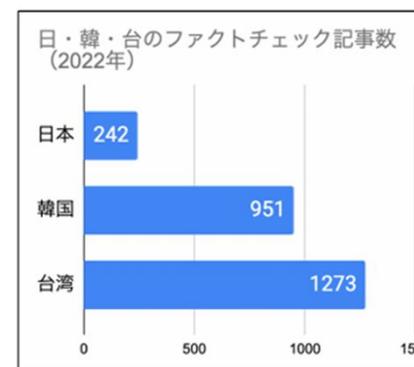
ChatGPT 4oで作成

② 技術の発展に伴う情報の高度な偽造

AI技術の進展等により、従来は偽造が困難であった画像や動画の偽造も容易に。感覚的に真偽を判断することが困難となっている。

③ ファクトチェックの認知度・浸透率が低い

より多くの団体・個人がファクトチェックに取り組むことで、多くの情報が真偽検証され、自浄的にフェイクニュースが淘汰されていくはずであるが、認知度・浸透率の低い日本においては、それらの作用がはたらきにくい。また、特定の団体のみがファクトチェックを行うことで、特定の組織や思想に立場が偏る危険性をはらむ。



第4章 リテラシー教育

偽情報拡散防止のためには法律やファクトチェックだけでなく、
市民のリテラシー向上が必要

偽情報横行 の原因 ※1

正確な情報より新規性が高くより広く・早く・深く拡散
疑う人より信じ込む人の方を拡散する傾向



社会への影響 ※2

医療・災害・政治情勢など社会への悪影響
情報発信(メディア)全般の信頼性低下
正確な情報にたどり着くための負荷増加 …等



リテラシー 教育の重要性

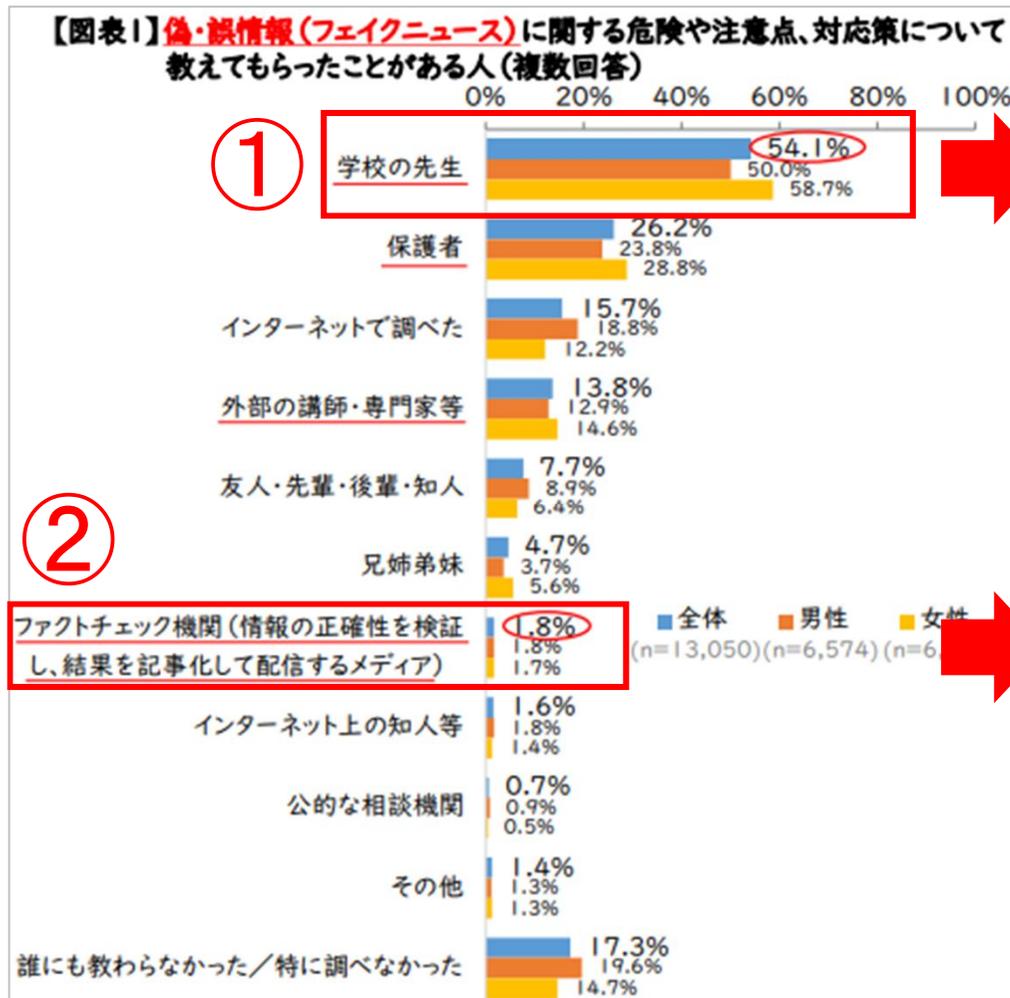
法律やファクトチェックだけでなく、受け手である
市民自身が偽情報・誤情報への耐性を持つ必要性



※1 Vosoughi, S., Roy, D.K., & Aral, S. (2018). [The spread of true and false news online.](#)

※2 総務省『インターネット上のフェイクニュースや偽情報への対策』から要約

リテラシー教育は、教員や保護者への適切な教材の提供やレクチャー等が重要

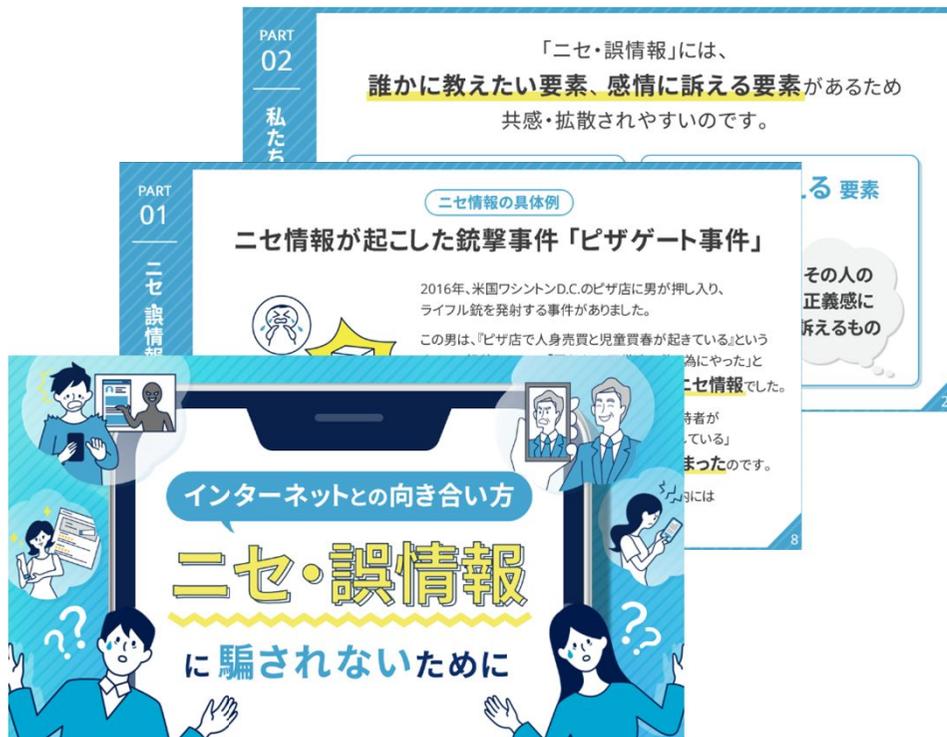


偽情報の危険性や対応策を教わったのは学校の先生が最多(54.1%)

ファクトチェック機関から教わったのはわずか1.8%

偽・誤情報の無料教育・啓発コンテンツあり 周知方法やレクチャー等の工夫により、強化が見込まれる

■ 総務省掲載教材※1



**インターネットとの向き合い方
ニセ・誤情報
に騙されないために**

PART 01 ニセ・誤情報

ニセ情報の具体例

ニセ情報が起こした銃撃事件「ピザゲート事件」

2016年、米国ワシントンD.C.のピザ店に男が押し入り、ライフル銃を発射する事件がありました。

この男は、「ピザ店で人身売買と児童買春が起きている」という偽りの情報を得たため、銃撃事件を起こしたとされています。

PART 02 私たち

「ニセ・誤情報」には、誰かに教えたい要素、感情に訴える要素があるため、共感・拡散されやすいのです。

その人の正義感に訴えるもの

■ 企業公開教材※2



マンガでわかる サイバーセキュリティ

情報の正しさを自分で確認しよう

このようなディープフェイクも含めて、不確かな情報に対しては次のような確認方法があります。

③ 元になったオリジナルの情報源を探す (増大情報引用や転載の場合)

このマンガは、ディープフェイク（偽りの動画や音声）に関するサイバーセキュリティの脅威と対策について説明しています。

ディープフェイクとは、「ディープラーニング」という人工知能（AI）の深層学習を示す言葉と「フェイク」（偽物）という言葉を組み合わせた造語です。

ディープフェイクを生成して、人の心理を揺さぶるような動画や音声コンテンツが拡散されると、情報の正確な判断が難しく、結果的にフィッシング詐欺等の被害に繋がる可能性があります。

最初に見ていた〇〇さんの動画も偽物の可能性があるってことか、比較を行う（デジタル情報の発信時期や情報源）を確認する。また、ファクトチェックサイトを利用する。

ディープフェイクが見破るのは難しいよ。確かな情報が確認する方法はないの？

ディープフェイクとは、AIの深層学習を示す言葉と「フェイク」（偽物）という言葉を組み合わせた造語です。

ディープフェイクを生成して、人の心理を揺さぶるような動画や音声コンテンツが拡散されると、情報の正確な判断が難しく、結果的にフィッシング詐欺等の被害に繋がる可能性があります。

最初に見ていた〇〇さんの動画も偽物の可能性があるってことか、比較を行う（デジタル情報の発信時期や情報源）を確認する。また、ファクトチェックサイトを利用する。

ディープフェイクが見破るのは難しいよ。確かな情報が確認する方法はないの？

※1 総務省『【啓発教育教材】インターネットとの向き合い方～ニセ・誤情報に騙されないために～』から

※2 三井住友銀行『マンガでわかるサイバーセキュリティ』から

アメリカでは**高校でのリテラシー教育の義務化**や、**偽情報に関する大系的な教育教材の整備**が進められている

イリノイ州の公立
高校でのメディア
リテラシー教育
※1

メディアメッセージの**恣意性**や、メディアが人々の**行動や考え与える影響**、**複数情報源を確保する重要性**などを教育



オンライン教材
Checkology
※2

100か国以上で利用されている、**クイズ形式で批判的思考力を養う教材**



checkology®

※1 Media Innovation『[イリノイ州がメディア・リテラシー教育を米国で初めて義務化](#)』から

※2 News Literacy Project: NLP『[Checkology](#)』から

リテラシー教育の実施により批判的思考力・情報評価能力・意思決定力を向上させる必要がある

批判的思考力
の向上

「情報には誤りが含まれる」という前提でメディアに触れることで偽情報への耐性を高める

情報評価能力
の向上

独力で情報の信頼性を精査できるようにする

意思決定能力
の向上

その情報を拡散すべきか否かを個人が精査できるようにする

第5章 おわりに

現状、フェイクニュースの対策には課題がある

- **法規制**

言論の自由の制限やオーバーブロッキングの懸念

- **ファクトチェック**

チェックできる情報量の限界、拡散の速さに追いつけない問題

AIなどによる高度な偽造による感覚的な判断の困難

ファクトチェックの認知度が低い&団体による特定の思想によるバイアス

- **リテラシー教育**

教材やプログラムの不足、成人に対する教育機会

⇒ 私たち国民の理解と協力が不可欠

まずは知ることから始めよう！

今日からできること

- 1 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳 㿴 㿵 㿶 㿷 㿸 㿹 㿺 㿻 㿼 㿽 㿾 㿿 ̀ ́ ̂ ̃ ̄ ̅ ̆ ̇ ̈ ̉ ̊ ̋

フェイクニュースを封じ込めるため、 できることから始めよう！

1

他の情報源と比べてみる
(誰かが間違いを指摘していないか)

2

その情報はいつ頃書かれたものか確かめる

3

情報の発信元を確かめる

4

一次情報を確かめる

5

拡散する前に立ち止まる
(自分がフェイクニュース拡散に加担しないだろうか?)



ご清聴ありがとうございました

第3章 想定問答



Q1：ファクトチェックを行うためのツールとしてどのようなものがあるか。

A1：一般的なニュース等に関するファクトチェックについては、ファクトチェック団体やメディアが公開しているファクトチェック記事を確認する方法があり、海外の情報であれば、Snopes（スノープス）といったサイト、国内であればファクトチェックナビなどのサイトで検索することが可能です。

一方で、高度に偽造された画像等の確認についてはGoogle画像検索や、改変された画像の元画像の検索まで可能なTinEyeなどのツールがあります。

さらに、SNS上のデマについては、CroedTangleというツールで情報の出所を分析することや、Hoaxyというツールで情報拡散の様子を可視化することが可能です。

Q2：日本国内ではファクトチェックはどのような状況か。

A2：日本国内では、総務省のプラットフォームサービスに関する研究会の中でファクトチェックの推進に関する議論が進められており、2024年には「インターネット上の偽・誤情報対策技術の開発・実証事業」といった事業が同省によって実施されています。しかしながら、このような動きに対しては「ファクトチェックは本来、国からも独立して行うものだ」といった意見が特に国内のファクトチェック団体を中心にしている状況です。非営利団体としてFIJなどの団体が活動を行っていますが、3章の最終スライドでも示したように、国内での認知度はいまだ高い状況とは言えません。

第3章 想定問答



Q3：主要なSNSのファクトチェックの状況

A3：Meta社は2016年から、国際ファクトチェックネットワーク（IFCN）に認証された各国のファクトチェック団体と提携し、FacebookやInstagram上の投稿を検証してきました。しかし、3章のスライドでも説明したように、米国内におけるこのプログラムの廃止を発表し、ユーザー主導の「コミュニティノート」方式へ移行する方針が示されています。

X（旧Twitter）では、第三者機関ファクトチェックを利用しておらず、ユーザーが投稿に対して注釈を追加し、その妥当性を他のユーザーが評価する「コミュニティノート」機能を導入しています。このシステムは、ユーザー間の合意形成を通じて情報の信頼性を高めることを目的としています。

また、YouTubeは、特定のトピックに関する誤情報の拡散を防ぐため、「ファクトチェック情報パネル」を導入しており、信頼できる第三者機関によるファクトチェック記事へのリンクを動画の下部に表示する機能などがあります。

TikTokでは、IFCNに認証された各国のファクトチェック団体と連携し、偽情報・誤情報の拡散を防止する取り組みを行っています。

第3章 想定問答



Q4：IFCNのCode OF Pricipleでは具体的にどのような内容が規定されているのか。

A4：国際ファクトチェックネットワーク（IFCN）の「Code of Principles」では、ファクトチェック活動を行う組織が遵守すべき5つの基本原則が定められています。

1. 非党派性と公正性：全てのファクトチェックにおいて同一の基準を適用し、特定の立場や政策を支持せず、公平な検証を行うこと。
2. 情報源の透明性：読者が検証結果を自ら確認できるよう、情報源を可能な限り詳細に提供すること。ただし、情報源の安全が脅かされる場合は、その限りではありません。
3. 資金源と組織の透明性：資金提供者が検証結果に影響を及ぼさないことを確保し、組織の資金源、構造、法的地位、主要メンバーの経歴を公開すること。
4. 検証方法の基準と透明性：検証対象の選定、調査、執筆、編集、公開、訂正に至るまでの方法論を説明し、読者からの検証対象の提案を奨励すること。
5. オープンで誠実な訂正方針：訂正方針を公開し、読者が訂正内容を容易に確認できるよう、明確かつ透明性をもって訂正を行うこと。

第3章 想定問答



Q5：ファクトチェックガイドラインでは具体的にどのような内容が規定されているのか。

A5：「ファクトチェック・ガイドライン」は、ファクトチェック記事の作成と公開に関する基準を定めています。主な内容は以下の通りです。

1. ファクトチェック記事の記載事項ファクトチェック記事であることを明示し、通常のニュース記事と区別する。検証対象の言説を明確にし、その発言者、発言の日時・場所、発言の意図などを正確に伝える。選定理由を説明し、読者が判定の根拠を確認できるよう、原典やデータを示し、可能な限り情報源へのリンクを提供する。
2. 判定基準検証結果は「正確」「ほぼ正確」「分かりにくい」「ミスリード」「不正確」「誤り」の6段階で評価し、誤解を生まないように説明を付す。判定は一貫性を保ち、過去の検証との整合性を重視する。
3. 検証方法の透明性検証対象の選定基準や調査方法を明確にし、読者がプロセスを理解できるよう説明する。情報源の信頼性を示し、可能な限り一次資料に基づく。統計データや専門家の見解を用いる場合は、その正当性を確認し、恣意的な解釈を排除する。
4. 取材と反論の機会検証対象の言説が誤りである場合、発言者に反論の機会を提供し、記事内で適切に紹介する。発言者からの異議申し立てがあれば、公正に検討する。
5. 訂正と透明性誤りがあった場合は速やかに訂正し、訂正履歴を公開することで透明性を確保する。訂正は読者が分かりやすい形で表示し、誤解を生じさせないよう工夫する。